

いきいき  
まえばし人



留学生や発展途上国の子どもを支援  
苦米地 純子さん・60歳  
富士見町原之郷

温かい心で人と人をつなげる

平成元年に設立された県内の留学生を支援する「GIFOSS（ギフォス）の会」に参加し、ことしで20年。現在代表を務め、留学生の生活の支援や悩み事の相談に乗っている。「アジアの留学生が空腹のためにパンを万引きした」という新聞記事を見て、とても悲しくなりました。何か留学生の役に立ちたいと考え、群馬大の留学生と活動を始めたのがこの会に携わるきっかけでした」

会の名前は、県内の留学生を支援する「群馬県在住の留学生の会」の英単語の頭文字から留学生が命名。会ができたころの留学生は、苦学生が多く、衣食住すべての面で苦勞をしていた。そのため、会でアパートの賃貸借契約代行やアルバイト探し、寄せられた食器などの生活必需品を

破格の値段で留学生に売るバザーなどをやり支援。しかし今は、物質的に豊かな学生が増え、支援はメンタルな部分のサポートが中心。ここが縁で結ばれたカップルも多い。「ここは人と人をつながりが生まれる場所。ここで出会った人が家族や子ども連れで訪ねてきます。巣立った人たちにとって、ここは群馬にある家なんです」

現在の活動は県内だけでなく、カンボジアやバングラデシュに赴き現地の子どもたちの支援もしている。

「留学生やその家族が現地で協力をしてくれたい。協力しながら顔が見える援助をしたいんです」

その温かい心で、ずっと留学生と子どもたちを包み込んでほしい。

わたしたちの学校 ニュース 大胡中

伝統行事で心を一つに

大胡中は、北校舎の廊下の窓からは赤城山が間近に、南校舎3階の教室からは前橋全体が見える場所にあります。

本校の伝統的な行事の1つに、体育大会で踊るソーラン節があります。ソーラン節から始まる体育大会の練習。最後の練習の日まで一生懸命頑張ります。本番ではさまざまな競技で個人・クラスが競い合いますが、フィナーレのソーラン節では、全校生徒の総勢540人が心を一つにして踊ります。



みんなで心を一つにして

生徒会長 齋藤 准己さん

踊り終わった後はとても大きな達成感と感動に包まれます。

また、秋には校内合唱コンクールが行われます。音楽の授業はもちろん、朝、昼、放課後と1日を通して練習。歌声と心を一つにして美しいハーモニーを作り出します。本番当日は各クラスの歌声が体育館中に響き渡り、コンクールの後は、クラスがより一層団結。3年で金賞を獲得したクラスは大胡地区の文化祭に代表として出場し、大胡中生の美しい歌声と団結力を披露します。

このほかに、まだまだ本校の良い所はたくさんあります。これからも一人一人が成長し、より団結力を高め、良い所を伸ばしていきたいと思えます。

きれいな歌声を披露



美しい音色が来場者を魅了

マンドリンのまち前橋・朔太郎音楽祭2009を10月24日・25日に開催しました。中心市街地などでのミニコンサートや、市民文化会館でのコンクールや演奏会では美しい音色が奏でられ、訪れた人々を魅了しました。

みんなの力作が勢ぞろい



11月1日、粕川小などで粕川地区産業文化祭が行われました。「元気に生きる 活力ある産業づくり」をテーマに、フリーマーケットや芸能発表、作品展示などを実施。みんなで楽しい1日を過ごしました。

ザスパ戦を通じて市民交流

10月25日、正田醤油スタジアム群馬で行われたザスパ草津ホーム戦に合わせてサンクス前橋デーを開催。試合を盛り上げるイベントなどが行われ、多くの市民やサポーターで埋め尽くされた会場は、まさにザスパ色の日となりました。



グーズアップ



自ら考えられる消費者へ

11月3日、グリーンドーム前橋で「消費者新時代 消費者が主役」をテーマに、消費生活展を開催しました。体験コーナーや悪質商法防止の寸劇、クイズ、試食など催しが盛りだくさん。自ら考え行動できる消費者になれるように、楽しみながら学びました。